

令和6年度 第1回亀岡市博物館整備検討委員会 議事要旨

日時:令和6年8月5日(月)14時00分～16時00分

場所:亀岡市役所 202・203 会議室

出席者: 井尻智道委員、加藤美智恵委員、栗本夏樹委員、佐々木京子委員、佐々木丞平委員、
中西裕樹委員、前田尚武委員、松井利夫委員、松岡久美子委員

事務局: 市長 桂川 孝裕

生涯学習部長 三宅 敦史、文化芸術課長兼文化資料館長 小塩 睦子

文化芸術課副課長兼文化資料館副館長 土井 孝則、

文化芸術課文化財係長 飛鳥井 拓(学芸員)、文化芸術課文化財係主任 小川 恭子

議題:

1 開 会

2 委員委嘱

3 市長挨拶

4 委員紹介

5 議事

① 亀岡市の骨子・今後の計画について

② 基本計画第1章について

③ 基本計画第2章について

6 その他

類似施設 事例紹介

能美ふるさとミュージアム(石川県能美市)

十日町市博物館(新潟県十日町)

兵庫津ミュージアム ひょうごはじまり館(兵庫県神戸市)

静岡市歴史博物館(静岡県静岡市)

岐阜県関ヶ原古合戦記念館(岐阜県不破郡関ヶ原町)

松本市立博物館(長野県松本市)

7 閉 会

審議内容(会議全体を通して主な意見)

・「市民の博物館」「みんなの博物館」が大事である。完成したものだけでなく、制作過程においても市民が関わっていくことが大切であり、市民意見を広く取り入れることが大事である。

・海外では、キュレーション(企画・展示)、エデュケーション(教育)、コンサベーション(作品の保全)の3つの部門にそれぞれ専門的な学芸員が配置され、連携している事例もある。日本では、この3つの分野のすべてを学芸員が背負う現実がある。これから新しくつくる博物館であれば、新しいスタッフの在り方を考えてはどうか。

→(事務局)専門分野に応じた人員配置は必要と認識している。芸術に関わる学芸員の配置や博物館全体の面積や機能にあわせた職員の人数の確保など、しっかりとソフト体制を整えていくべきだと考える。

・どのような博物館をつくるかも重要だが、何を誰がやるかも最初から議論すべきだと思う。試しに3年間の博物館の収集や保存、展示スケジュールをつくれば、実施するためにはどれくらいの人数、スペースが必要になるかがみえてくる。まずは、年間の運営スケジュールをつくることで、博物館のイメージを具体化していくとよいと思う。

・箱物はスペースや予算といった限界があるが、それをクリアできるのが人材である。市民との連携・活動に予算をかけるのが一番よい。市民は地域の文化の創造、担い手であり、市民のプライド、地域に対する愛着は支えになる。

・博物館の機能については、最低限これだけの機能が必要であると基本計画の最初に掲げておくことは大切だと思う。基本的な機能を掲げた中で、人材の活用をどこまでふみこんでいけるか議論し、基本計画とすり合わせができればよい。

・災害時の対応についてしっかり基本計画に記載した方がよい。

・博物館が中心となり、収蔵庫に関する段階的な基準をつくり、収蔵するものに応じて、博物館にある収蔵庫、亀岡市内にある各収蔵庫に適切に管理ができるように進めていけばよい。

・新しい博物館については、人と人、人とモノを結びつけ、連携していくことで、市内に所在する様々なハード・ソフト両面の資源を最大限に活かしていくハブとしての機能を持たせることを重視し、適切な人材配置や組織設計を進めていくことが大切である。

・博物館に美術館的機能をどのように持たせていくのか、文化資料館が築いてきた歴史分野の財産を土台としながら、芸術分野(かめおか霧の芸術祭等)をどのように取り入れていくのか、方向性や長期的な計画をしっかりと議論しないといけないと思う。

以 上